

群 教 七	G09 - 02
	平25.251集
	中・外国語

まとまりのある英文を書く 中学校英語指導の工夫

—Before・Afterの例示を基にした
学び合い活動を取り入れて—

特別研修員 日野 響子

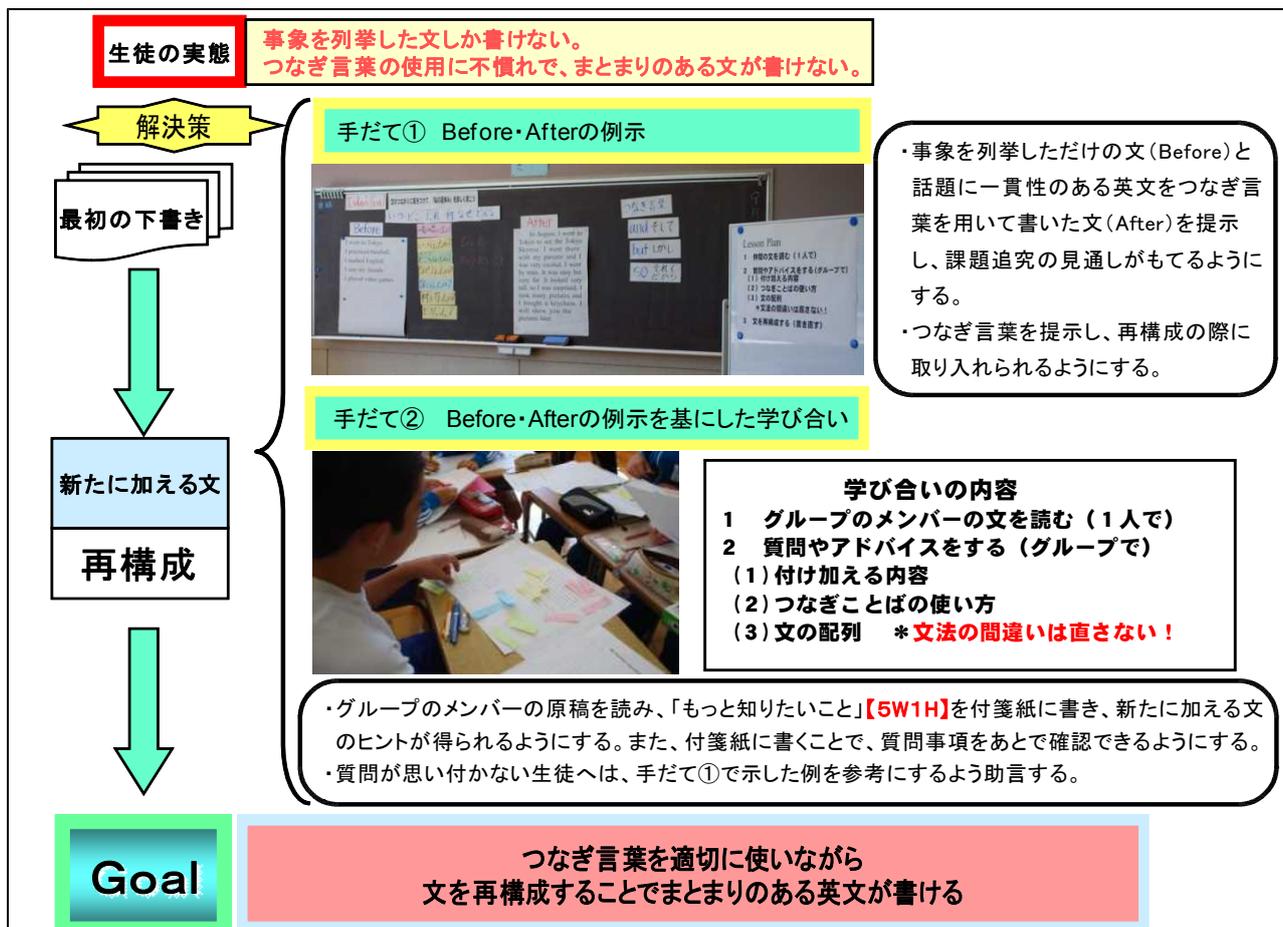
I 主題設定の理由

本校の生徒にとって「まとまりのある文を正しい英語で書くこと」は課題である。これまでの書く活動では、指定された数の文を、またはその数以上の英文を書くことができるが、前後の文につながりがなかったり、事象を列挙しているだけだったりする生徒が多かった。

そこで、Before・Afterの例示を基にした学び合い活動を課題解決の主な手だてとし、「読み手の知りたい情報」に気付けるようにするためのペアワークやグループのメンバーが書いた文を読み、ねらいにより近付くための助言、添削をする学び合い活動をすることで、単なる事象の列挙ではなく、周囲の状況や情景、根拠のある感想を含めた文章が書けるようになって考えた。そして助言を参考に新たな情報を加え、「つなぎ言葉」を適切に使いながら文を再構成することでまとまりのある英文が書けると考えた。これらの考えから、上記のとおり主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手だて

(1) Before・Afterの例示

「まとまりのある英文」とは、「一つの話題について詳しく書かれ、その内容に関連性と一貫性がある文」であることを説明した。また、but, and, so, if, when, becauseなどを「つなぎ言葉」として取り上げ、これらは文と文のつながりを明らかにする効果があり、まとまりのある英文を書くために役立つことを紹介した。そして、生徒によって解釈に差が生じないように、口頭説明だけでなく、まとまりのある英文を提示し、視覚的に理解できるよう以下の工夫をした。

事象を列挙した文(悪い例: Before)、まとまりのある英文を「つなぎ言葉」を用いて書いた文(よい例: After)を提示し、比較する活動を設定し、視覚での課題解決の理解を促す。

①「つなぎ言葉」の提示

「つなぎ言葉」を提示し、英語と意味の確認をすることで、文中の適切な場面で使用できるようにする(学習が進むに連れ、提示する「つなぎ言葉」を増やしていく)。

②質問例の提示

一つの話題について詳しく書くための5W1Hを用いた質問の例を提示し、生徒同士の気付きを促す学び合い活動で質問する際に参考にできるようにする。

(2) 生徒同士の気付きを促す学び合い活動

①個による活動

グループのメンバーが書いた文を読んで、参考になる表現などを見付け、自分で伝えたいことを英語で表す際に生かせるようにする。

②ペアによる活動

書く活動を始める前にペアで会話や質問をすることで、情報の受け手の知りたい情報に気付けるようにする。

③グループによる活動

「もっと知りたいこと」をグループで質問し合い、下書きに新たな文を加え、再構成する際のヒントを得られるようにする。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- グループのメンバーからの質問「もっと知りたいこと」を参考にして下書きに新たな文を加えて再構成したことで、事象だけでなく周囲の状況や情景、根拠のある感想を書くことができた。
- 「つなぎ言葉」を用いて再構成したことで、文と文のつながりが明らかな文を書くことができた。
- Before・Afterの例示を基にして文章を再構成したことにより、「全体の構成を考えて書くこと」「自分の経験や感想を具体的に書くこと」を実践できる生徒が増えた。

2 課題

これまでの各自の学習経験と学び合い活動の内容を活用して、「もっと伝えたいことはないか」と自問し、より詳しい情報を発信できるように習慣付けることが今後の課題である。

3 まとまりのある英文を書くためのさらなる改善に向けて

これまでは自分の経験や感想を表しやすい身近な話題について書く活動を行っていたが、今後は物語や説明文等、あるテーマについて書かれたまとまりのある英文を読み、それに対する自分の考えを書く活動へと発展させることが求められる。そのためには、日々の授業で自分の考えを表現する活動を習慣付けることが大切である。

また、他の生徒や教師からの助言に頼るのではなく、自分で「読み手の知りたい情報」に気付き、「つなぎ言葉」を用いて文を構成し、まとまりのある英文を書けるようにすることが肝要である。

IV 実践及び改善の実際

実践 1

1 単元名 Multi Plus 1 「私の夏休み」(第2学年・9月)

2 本単元及び本時について

本単元は、自分の考えや気持ちなどが情報の受け手に伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことにより、自分が実際に体験したことや体験を通して感じたことを情報の受け手に詳しく伝えることができるようにする。本時は全4時間計画の第3時にあたり、他の生徒の「私の夏休み」を読んでよさを見付けたり、グループのメンバーから付け足すべき内容などの助言を聞いたりする学び合い活動を通して、まとまりのある英文で「私の夏休み」を書くことがねらいである。

3 授業の実際

導入において、本時の目標 (Today's Goal) と事象を列挙しただけの文 (Before) とまとまりのある英文を「つなぎ言葉」を用いて書いた文 (After) を提示し、課題追究の見通しがもてるようにした。

Today's Goal

文のつながりに気を付けて、「私の夏休み」を詳しく書こう

(Before)

I went to Tokyo.
I practiced baseball.
I studied English.
I saw my friend.
I played video games.

グループのメンバーからの
質問 (もっと知りたいこと)

一番の思い出は？

どこへ行ったの？

誰と行ったの？

(東京は) どうだった？

(After)

In August, I went to Tokyo to see the Tokyo Skytree. I went there with my parents and I was very excited. I went by train. It was easy but very far. It looked very tall, so I was surprised. I took many pictures and I bought a keychain. I will show you the pictures later.

「つなぎ言葉」の確認

but、and、so

BeforeからAfterに変化するには、グループでどんな質問をしたか、そしてどんな「つなぎ言葉」を使用しているか、教師が生徒に質問した。質問に答えながら生徒は、「一番の思い出として東京を選び、グループのメンバーの質問に答えながら内容を豊かにした」「まとまりのある英文にするために『つなぎ言葉』『but』、『and』、『so』を用いている」ことに気付くことができた。

これまでの学び合い活動では、付け加える文について話し合うグループもあれば、文法の間違いを直すグループもあり、活動の内容に違いが生じていた。そこで、話し合いのポイントが明確になるように本時は加える内容についてのみ話し合い、次回は添削や表現方法について話し合うよう指示した。

互いの英文の質を高める学び合い活動の様子

T : 「つなぎ言葉」が適切に使われているところや、参考にしたい表現を見付けましょう。

S1 : (「つなぎ言葉」) Soが使われている。

S2 : I want to を使って、私も「またしたいこと」を書こう。

S3 : 夏休みの出来事だけでなく感想も書いてあって、どんな休みだったかよく分かるな。

S4 : S1さんはたくさん書いてすごい。私ももっと文を増やそう。

グループのメンバーの原稿から参考になる表現を見付けるなどして、文を再構成する際に参考にできた。また、仲間がたくさん書くことに挑戦している姿に触れ、書くことへの意欲を高めていた。

生徒同士の気づきを促す学び合い活動の様子

T : 「もっと知りたいこと」を付箋紙に書き、
グループのメンバーに質問しましょう。
5W1Hの質問を考えましょう(図1)。

S1 : → S4 : 8月14日,15日

S2 : → S4 : 牛タン

S3 : → S4 : 宮城スタジアム

(質問に口頭で答えたり、回答を付箋紙に書き込んだりした)

は生徒が付箋紙に記入した質問



図1 質問記入の様子

事前に質問事項を付箋紙に書き留めておくことで、全員が質問することができた。また、質問された生徒は付箋紙が手元に残るので、その付箋紙を参考にして付け加える文を考えることができた。本時の下書きと加える文によって文を再構成し、「私の夏休み」を書き直した。(図2、4)。

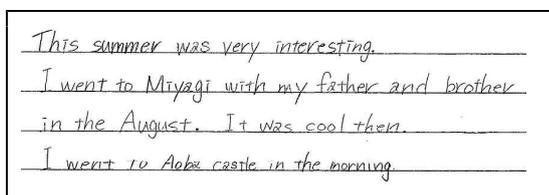


図2 生徒の下書き (Before)

生徒は下書きにただ文章を加えるだけでなく、一番の思い出から書き始めるか、時間の経過に沿って書くかなど、文の順番について検討した。さらに相手にとって読みやすくなる文章にするために、「つなぎ言葉」を用いて再構成した(図4)。

再構成した作品は掲示し、他の生徒の再構成の仕方を学べるようにした(図3)。



図3 展示作品

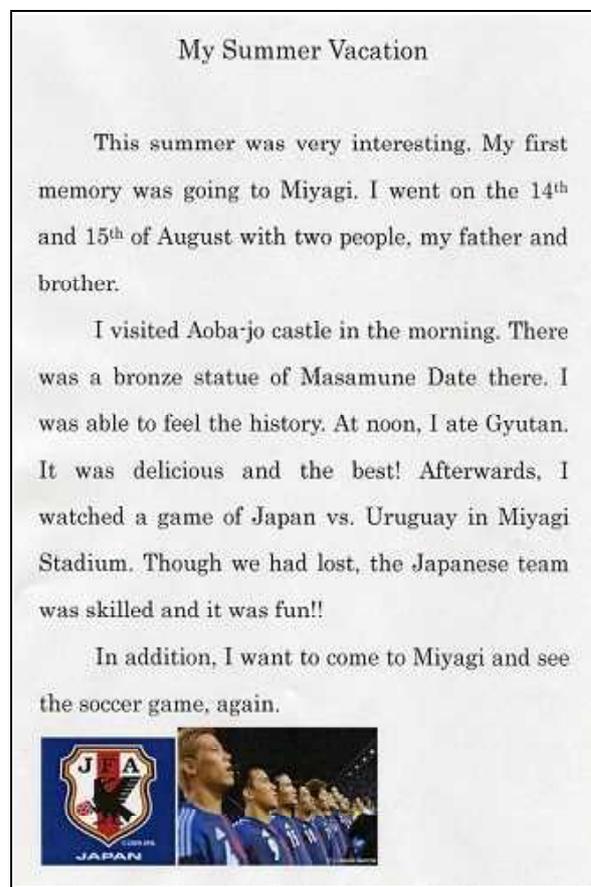


図4 再構成した作品 (After)

4 考察

Before・Afterの例示をしたことで、まとまりのある文を書くためには一つの話題について詳しく伝えること、「つなぎ言葉」を用いて文と文のつながりをよくすることが必要であると生徒に気付かせることができた。その結果、生徒18名の使用平均語数は下書き41.4語から再構成後58.3語に増加した。また、「つなぎ言葉」を使用することができた生徒は、50%から83%に、「つなぎ言葉」使用平均語数は1.6語から3.9語に増加した。そして、理由を表せた生徒は17%から45%に増加した。量的にも質的にも文章が向上したことが分かる。

よって、この取組は課題を解決するために必要な学び合い活動をさせるために有効であったと考える。

実践 2

1 単元名 Unit 5 A New Language Service (第2学年・12月)

2 本単元及び本時について

本単元では、言語材料の接続詞if, when, because, (I think) that を使用することで、場面を明確にしたり、自分の考えを伝えたり、また理由を述べたりすることができるようになる。本時は10時間計画の第8時にあたり、単元のまとめとして自分の意見や感想を述べる言語活動を行い、その考えの根拠を併せて伝え、説得力のある意見を伝えることができる力を養う。

3 授業の実際

実践1と同様に導入において、本時の目標と事象を列挙しただけの文 (Before) ととりまりのある英文を「つなぎ言葉」を用いて書いた文 (After) を提示し、課題追究の見通しがもてるようにした。

また、ウォームアップのインタビューゲームに「because」を取り入れて週末の感想とその理由の表し方を確認し、書く活動をする際に参考にできるようにした。

Today's Goal

文のつながりに気を付けて、「私の週末」を詳しく書こう

(Before)

I went to Takasaki.
I enjoyed shopping.
I went to Numata.
I played tennis.
I got tired.

グループのメンバーからの

質問 (もっと知りたいこと)

誰と行ったの？

どこで何を買ったの？

試合はどうだった？

なぜ疲れたの？

(After)

I went to AEON with my friend on November 23. We enjoyed shopping. **When** I visited my favorite shop, they had a sale, **so** I bought a nice T-shirt. I was very happy. I went to Numata to have a tennis practice match against Numata-Chu. I got tired **because** I played many matches. I couldn't win all of them, **but if** I have a chance to try again, I hope **that** I can win all of the matches.

「つなぎ言葉」の確認

but
and
so

if
when
because
(I think) that

インタビューゲーム (ウォームアップ) の様子

T: 質問されたら、まずは一番下の答えA1から答えはじめ、じゃんけんに勝つごとにA2、A3、A4と答えを変えましょう。A5では、「あなた自身の週末」について話してください。

Q: How was your weekend?

A5: It was _____ because _____.

A4: It was boring because I didn't go anywhere.

A3: It was tiring because I had a lot of homework.

A2: It was bad because I was sick and in bed.

A1: It was great because I enjoyed shopping with my friends.

S: 先生、自分の週末もA2と同じなんです。

書いてあることと同じことを言ってもいいですか。

T: はい。答えと同じ人は、A1～A4の文を使って答えてください。



図5 ゲームの様子

生徒のペアワークでの会話を参考にして教師が答えを用意したことで生徒の実態に即した答えとなり、支援が必要な生徒はA1～A4を参考にしてA5で答えることができた。

生徒はインタビューゲームで「つなぎ言葉」becauseの意味やbecauseの後ろの語順を確認したことで、感想の根拠を正しく表すことができた。

互いの英文の質を高める学び合い活動の様子

T : 「つなぎ言葉」が使われているところや、参考にしたい表現を見付けましょう。

見付けたら、線を引きましょう。

S1: but、becauseがあった。

S2: 付け加えなくてもよいくらいたくさん書いている。すごい。

T : なぜ、Excellentに線を引いたの。

S3: 「すごくよかった」と伝えるときに使えると思ったからです。

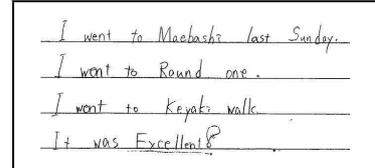


図6 参考にしたい表現

ほとんどの生徒が「つなぎ言葉」を見付けることができた。また、参考にする表現を見付けられる生徒も増えた。

生徒同士の気づきを促す学び合い活動の様子

T : 「もっと知りたいこと」や5W1Hの質問を付箋紙に書きましょう。

質問が書けたら、グループのメンバーに質問をしましょう。

質問するときは、付箋紙を無言で渡すのではなく、声に出して質問をしましょう。

グループのメンバーが質問されたことも自分が文を加えるときにヒントになるので、自分に質問されているとき以外もしっかり聞きましょう。

S1: → S4: 友達

S2: → S4: 育英

S3: → S4: ためになった

付箋紙の渡し方の例もBefore（悪い例）After（よい例）で教師が示し、学び合いの仕方と利点が理解できるようにした。

声に出して質問したことで、聞かれた生徒はその場で質問の答えを確認することができ、付け足す文の参考にできた。また、付箋紙に書いてない質問もするなど、会話を膨らませることができた。

実践1では「再構成をしよう」と指示したため、実践後に「再構成とは何か分からない」「再構成は難しい」「再構成ができていないのか自信がない」と言う生徒がいた。実践2では「組み立て」「はじめ、中、終わり」などと小学校の作文指導で使われる言葉を用いて、再構成の意味を理解させ、苦手意識を払拭できるようにした。

4 考察

再構成した「私の週末」を見ると、どの生徒も下書きに新たな情報を加えていた。これまで自己表現の問題は無記入であった生徒2名も加えることができた。生徒へ実施したアンケート「英文を書くときに気を付けていることは何か」の実施前と後の結果は、「全体の構成を考えて書くこと」が27%から50%へ、「自分の経験や理由を具体的に書くこと」が16%から28%へと変化しており、生徒が分量だけでなく、内容や構成についても意識するようになったことが分かる。

前回の学び合い活動の成果が今回の活動に反映されており、実践1再構成後の使用語数（71語）を上回る語数（112語）を用いて実践2の下書きをした生徒もいた。また、実践1の下書きで「つなぎ言葉」を使用した生徒は50%であったが、今回は67%に増加した。そして、新たに加わった「つなぎ言葉」であるbecauseやI think thatを用いることもでき、45%の生徒が根拠のある感想を書くことができた。活動を終えた生徒の感想には、「1学期と比べて『理由』などを具体的に書けるようになって、自分の伝えたいことをきちんと伝えられた」と言った記述があり、根拠のある感想を書くにはbecauseなどの「つなぎ言葉」の使用が大切であることが理解できたと考えられる。

以上のことから、学び合い活動をしたことは、まとまりのある英文を書くことに有効であったと言える。